

2023年3月期 通期決算に関する主なご質問

- Q: 2023年3月期の通期営業利益は業績予想から大きく上振れたが、主な要因は？
- A: 主に自動車用ガラス事業の改善と燃料価格の低下によるものです。下半期、特に第4四半期においては半導体不足の影響が徐々に緩和され販売数量が増加し、価格改善交渉による販売価格の改善も期末にかけて進展しました。また、急騰していた欧州の天然ガス価格がやや落ち着いたことも要因となりました。
- Q: 2024年3月期通期営業利益予想の300億円は2023年3月期に営業利益348億円であったことを勘案するとやや保守的に映る。減益予想とした背景を教えてください。
- A: 燃料価格はやや低下しているものの、世界的なインフレ拡大の進行による原材料価格や人件費等その他の増加が予想されているためです。引き続き価格転嫁を推進し、コスト増加の影響を軽減していきます。
- Q: 2024年3月期では、事業部ごとにそれぞれどのような想定をしているか教えてください。
- A: 建築用ガラス事業については2023年3月期ほどではないですが比較的堅調に推移し、また太陽電池パネル用ガラスは販売数量増加を見込んでいます。自動車用ガラス事業も販売数量改善を見込んでいます。高機能ガラス事業については、IT市場の減速を受け特に上半期は軟調に推移すると見えています。
- Q: 太陽電池パネル用ガラスにおいて、最大の顧客であるファーストソーラー社が米国で能力増強を検討中というところだが、どのように対応していくのか？
- A: 対応については最終決定はなされていませんが、既存の設備を転換するなど投資に対する効果が大きくなることを基本方針に対応を検討しています。
- Q: 2024年3月期において、ファーストソーラー社は増産を計画しているようだが太陽電池パネル用ガラスは堅調に推移する見込みか？
- A: 太陽電池パネル用ガラスの販売数量は増加を見込んでいます。また、2024年3月期第3四半期にはマレーシアのソーラー設備が稼働を開始し、ファーストソーラー社の増産計画に対応します。
- Q: 2024年3月期では純利益の増益を予想しているが、復配やA種種類株式の償還についてどう考えているか？
- A: 復配やA種種類株式の償還については純利益およびキャッシュの積み上げが重要と考えています。足元では金利上昇に伴い金融費用が増加傾向にあり、借入金も減らしていく必要がありますので、借入金の返済、A種種類株式の償還や復配は財務状況も勘案しながら、適切なタイミングとこれらのバランスを踏まえ検討・対応していきます。